

鉄道作業場面における判断傾向評価手法

北村康宏 佐藤文紀 増田貴之 河地庸介 小野間統子

意思決定のミスによる事故を防ぐためには個人差を正確に評価したうえで、適切な教育訓練を行う必要があります。そこで、意思決定を判断のみならず、その前後の状況認識まで含めた4つの段階から構成されるものと捉えた意思決定スキルモデルを提案し(図左)、モデルに基づいた評価手法を開発しました。心理学の知見をもとに、4つの段階を阻害する要因の影響をパソコンを使って測定する、4つの意思決定の作業課題、短期的利得を重視する傾向を測定する「タワー課題」、自分の作業結果を過大評価する傾向を測定する「確認の要否判断課題(コウテツ課題)」, 衝動的に判断

する傾向を測定する「BART課題」、前の選択に固執する傾向を測定する「異常時シナリオ課題」を作成し、ソフトウェア化しました(図右)。また一部の課題を対象に、実施中の脳活動をfMRIを使用して測定し、作業課題で意思決定スキルを評価できていることが確認されました。

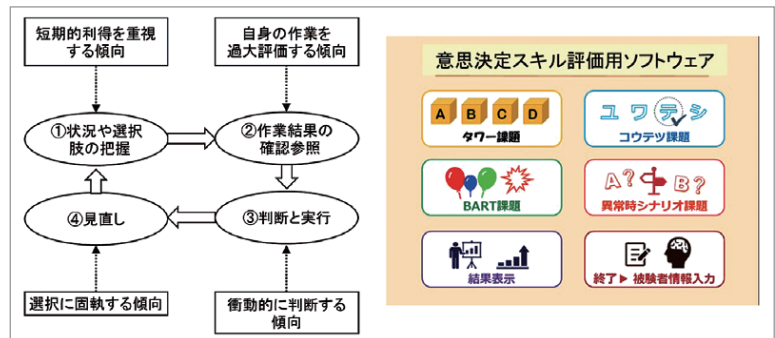


図 意思決定スキルモデル(左)と作業課題(右)